

大豆新品種「アキシロメ」について

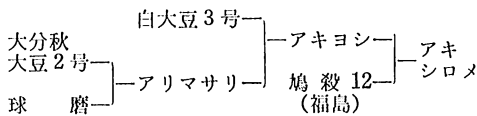
岩田 岩保・大庭 寅雄・*竹崎 力・*工藤 洋男
 異儀田和典・*小代 寛正・*池田 稔・原 正紀
 *下津 盛昌・*富田 貞光・高柳 繁・*志賀 鑑昭
 (九州農業試験場・*熊本県農業試験場)

本年、秋大豆としては早生短莖で、水田転換期にも良く適応する良質、多収の新品種「アキシロメ」を育成したので、その来歴及び特性を報告する。

1. 来歴および育成経過

「アキシロメ」は、昭和36年、熊本県農業試験場阿蘇分場において、「アキヨシ」を母とし、「鳩殺12」を父として人工交配を行った。その後、昭和40年までは集団選抜を続け、同41年にF₅で個体選抜を行った。以後、系統選抜により固定を図り、同44年にF₈で「九州85号」の系統名を付した。昭和46年から九州農業試験場作物第2部作物第3研究室がこの育成を引き継ぎ、系統の維持、生産力検定、各種の特性検定を行いながら、関係各府県に配布して系統適応性検定、奨励品種決定試験等の各試験を重ね、地方適否を検討してきた。昭和54年6月「だいち農林69号」として登録、「アキシロメ」と命名された。

品種の系統図



2. 特性の概要

1) 形態的特性 「アキシロメ」は、育成地では標準品種「アキヨシ」に比べて15cm内外短莖で、節数、分枝数も少なく、良くまとまった草状を示す。中国地方では育成地より早播されるのでやや大型になるが、「中鉄砲」に比べてやや短莖である。花は紫、熟莢色は暗褐、毛茸は灰白色でやや密に生えている。子実は中の大粒で球形に近く、粒ぞろいが良い。また、粒色は黄白、臍色は黄で、種皮の亀裂、しわ等の障害が少なく、「アキヨシ」

及び「中鉄砲」に比べて品質が良い。

2) 生態的特性 育成地での「アキシロメ」の熟期は、標準播種期(7月中旬)の場合10月下旬で、「アキヨシ」より10日前後早く、「中鉄砲」とはほぼ同時期である。これは秋大豆として早生に属する。着莢性は密である。

本品種の子実収量は、育成地では「中鉄砲」を含む早生種間では多収を示すが、中晩生の「アキヨシ」や「ヒュウガ」に比べると20%前後劣る。しかし、広島県や岡山県では中生種に属し、それぞれの標準品種「中鉄砲」及び「シロタエ」に比べて多収を示す。「アキシロメ」の密植適応性はあまり高くないが、耐倒伏性は「アキヨシ」より明らかに強い。また、晩播適応性も早生種間では高い。

3) 耐病虫性 本品種の耐病性について、ダイズウイルス病抵抗性程度は中位で「アキヨシ」より強い。また粒の褐斑抵抗性は強である(愛媛県農試検定)。紫斑病抵抗性は「アキヨシ」、「中鉄砲」と同程度で、発生は少ない(福島県農試津支場検定)。この他、育成地の調査では、本品種はべト病に強く、銹病抵抗性は「アキヨシ」に劣る。

耐虫性について、「アキシロメ」のネコブセンチュウ抵抗性は弱(鹿児島県農試大隅支場検定)、シストセンチュウ抵抗性は最弱(栃木県農試黒磯分場検定)である。しかし、育成地でのカメムシその他の莢実害虫による被害率は、開花期の近似する早生品種間では低い群に入る。

4) 子実成分 育成地産の「アキシロメ」は、「アキヨシ」に比べて蛋白質含量には差がなく、脂肪含量は僅かに低い。広島県農試産の「アキシロメ」の蛋白質及び脂肪含量は、いずれも「中鉄砲」と大差ない。

第1表 育 成 経 過

年次世代	昭37 F1	38 F2	39 F3	40 F4	41 F5	42 F6	43 F7	44 F8	45 F9	46 F10	47 F11	48 F12	49 F13	50 F14	51 F15	52 F16	53 F17
供試																	
系統群数						30	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1
系統個数	28	1000	1500	2000	2000	1020	15	15	15	15	15	200	200	200	200	200	500
選抜																	
系統群数						3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1
系統個数	24				30	15	15	15	15	15	1	1	1	1	1	5	5

3. 広島県の試作成績

本県での「アキシロメ」は、過去4年間a当り35~44kg, 平均41.3kgの高収を維持した。これは「中鉄砲」につねにまさり、平均で11%増に当る。広島県農試高冷地試験地(標高400m)の播種時期試験(5月23日, 6月5日及び6月26日播)でも、「アキシロメ」は各播種期とも倒伏はなく、「中鉄砲」に比べて多収を示している。また、県内現地試験では、中部高原及び東北部山間の一

第2表 アメシロメの主要特性

品 種 名	九州農試(育成地)		広島農試本場	
	アキシロメ	アキヨシ	アキシロメ	中鉄砲
開 花 期(月・日)	8.18	8.25	8.5	8.8
成 熟 期(月・日)	10.24	11.5	10.25	10.24
生 育 日 数(日)	100	112	130	129
莖 長(cm)	39	54	62	74
分 枝 数(本)	3.5	5.0	7.8	7.9
主 莖 節 数	11.8	14.2	16.5	16.3
倒 伏 程 度	無	微	少~中	少~中
子 実 取 量(kg/a)	20.8	25.8	41.3	37.5
同 上 対 標 比 (%)	78	100	111	100
百 粒 重 (g)	25.8	22.3	33.2	38.1
粒 色	黄白	黄白	黄白	黄白
臍 色	黄	淡褐	黄	褐
種 皮 の 亀 裂	微	少	微	多
品 質	上	中	上下	中上
*粗蛋白質含量(%/乾物)	39.4	39.4	39.4	39.5
*粗脂肪含量(%/乾物)	21.0	22.9	22.4	21.9
試 験 年 次	昭和49~53年		昭和50~53年	
播 種 月 日(平均)	7月16日		6月17日	
栽 植 密 度	60cm×15cm1本立		60cm×25cm1本立	

* 昭和53年度産, 北海道農試作物第1部作物第1研究室分析

部でやや低収のところのみられるが、その他は県下一円でも多収で、水田転換畑にも良く適応している。

「アキシロメ」の粒大は「中鉄砲」に比べれば劣るが、

ここでの百粒重は32~35gの大粒になり、種皮の亀裂などの障害粒が対照的に少なく、品質がすぐれている。

4. 栽培適地および奨励品種採用県

広島県及びその周辺の中国地方に最も良く適応し、普通畑、水田転換畑をとわず安定多収する。広島県は、昭和54年度に本品種を奨励品種に採用、県西部及び東北部の山間を除く県下全域を普及対象とし、普及面積は約1,500haを見込んでいる。

この他の地方でも、多収を示しているところがかかなりあり、四国地方北部、近畿地方及び九州地方の北部など、北緯34度~35度付近に位置する各県及びこれに類似する気象環境地帯に適応する。また、九州地方中部でも中山間地帯には適応するので、早生種としての利用が期待される。

5. 栽培上の注意

本品種は、比較的短茎で、まとまりが良く、倒伏に強いが、密植適応性はあまり高くないので、その地方の標準播種期、播種密度を守り、肥沃度の高いほ場での早播あるいは密植は避けるようにする。前作、天候等で止むを得ず10日~15日の晩播になる場合は、栽植本数を2~3倍に増し、生育量の減少を抑制する必要がある。薬剤の適期防除は、他の品種と同様絶対に必要である。有害土壌センチュウには弱いので、連作は避けた方がよい。サビ病、株枯病、葉焼病の多く発生するほ場への作付も好ましくない。

6. 命名の由来

安芸の国(広島県地方)に適する秋大豆で、粒色が黄白、白目の品質良好な品種であることを表わす。